

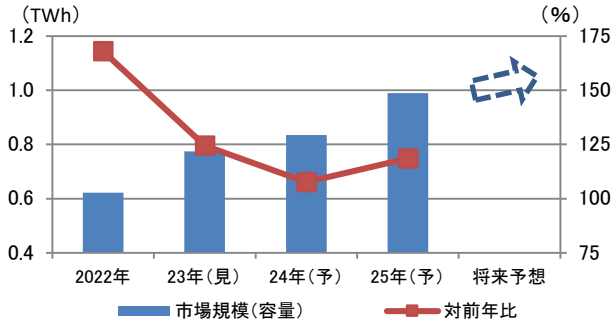
業界アウトライン

・2023年の世界自動車生産台数規模は、9,085万台（前年比106.7%）、xEV比率は24.4%と見込まれる。自動車業界では、CASE（Connected、Autonomous、Shared & Service、Electric）と呼ばれる新領域での技術革新が進められている。

注目市場

車載用LiB（リチウムイオンバッテリー）市場

車載用LiB市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

・2023年の車載用LiB世界市場規模は、775GWh（対前年比124.5%）、xEVタイプ別では、EVが710.7GWh（同124.4%）、PHEVが57.5GWh（同126%）、HEVが6.7GWh（同124%）と見込まれる。

・xEV（EV、PHEV、HEV）の世界生産台数増加と連動し、車載用LiB市場も拡大が見込まれる。コロナ禍以降も電動車市場は成長を継続しており、中国に続き、欧州、北米へと成長エリアは拡大している。

■業界動向／事業者動向

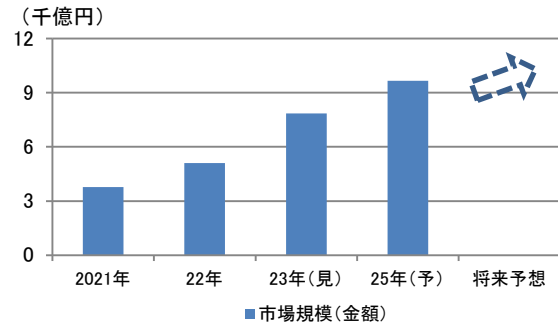
・LiB搭載の電動車の中でもEV市場が勢いづく中、車載用LiBセルメーカーは需要増加に応えるべく生産能力の拡充に取り組んでいる。自動車メーカーにとって車載用LiBの安定調達と低コスト化の実現は競争力に直結するため、今後、電池のサプライヤー戦略が最重要課題の1つになるとみられる。

・今後、EVの大衆化実現に向け、市場規模が大きい中容量（40～69kWh程度）EVでは、CTP（Cell to Pack）やCTC（Cell to Chassis）等の新たな電池パック技術とLFP等のコスト競争力を有する正極材の組み合わせが拡大する可能性もある。EVの普及拡大に向け、バッテリーの低コスト化が推進されている。

注目市場

車載用ソフトウェア市場（ソフトウェア開発ベンダー編）

車載ソフトウェア市場 市場規模推移



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

・ソフトウェア開発ベンダーが手掛ける2023年の車載ソフトウェア国内市場規模は7,850億円（対前年比153.9%）の見込み。車載ソフトウェアは制御系と車載IT系に大別され、2023年の構成比は、制御系が75.8%、車載IT系が24.2%となっている。

・車載ソフトウェアによって自動車の機能が更新されることを前提に設計・開発された車両であるSDVの実現に向けては、車両に搭載している制御系と車載IT系が併存した形になるとみられる。

■業界動向／事業者動向

・制御系は、走る・曲がる・止まるなど各機能の電子制御を担うECUユニットなどから構成され、各専門領域に特化した個別最適であるのに対し、車載IT系は、車載OSを含む多階層のレイヤ構成で、クラウドベースによる柔軟なサービス展開が可能な他、全体最適でシステムをデザインする点が特徴。

・近年、ADASなどの高度化に伴い、ECUの搭載数が年々増加した結果、従来のECUを統合ECUへと収斂していく方向にあり、自動車メーカーや自動車部品サプライヤーは、CASEを志向した次世代の車載ソフトウェアを構築すべく、ソフトウェア開発ベンダーに研究開発案件を積極的に出している状況にある。